



新鶴見小

江ヶ崎町2番1号 ☎583-8915

待ちに待った 学校再開！

～ 心と心はつながって ～

校長 佐藤 朗子

一斉臨時休業が終わり、ついに学校再開となりました。2年生以上の子どもたちにとっては、昨年度の3月3日から、約3か月間という長い休業期間でした。子どもたちが学校に戻ってきてくれること、本当にうれしいです。やはり学校には、子どもたちの姿が無くてはならないのです。子どもたちも、学校が始まる日を楽しみに待っていてくれたでしょうか。

5月に、私が体験したことを2つお話します。

食材を買うために、スーパーに行ったときのことで。閉店時刻に近かったので、店内はそれほど混んでいませんでした。会計を終え、品物を袋に入れるため、出口の外にあるテーブルにかごを置きました。外に出たほうが風通しがよいと思ったので、外のテーブルに向かったのですが、同じテーブルを使っていた人に怒鳴られてしまいました。私としては、かなりゆったりと間を空けてかごを置いたつもりだったのですが、2メートルは離れていませんでした。

学校からの帰り道のことで。雨が降っていたため、JR川崎駅から京急線に乗り換えるために地下街を通りました。同じように京急線に向かう人たちの後ろに並んでエスカレーターに乗ったとき、突然目の前に袋が飛び出してきました。前の人を持っていた袋を後ろに振り回したのです。一段空けてエスカレーターに乗りましたが、前にいた人にとっては、私が近すぎると感じたのでしょう。

多くの人たちが身体的距離を確保して過ごしているのだなと感じるとともに、少しさみしい気持ちにもなりました。以前と同じようには過ごせない、私自身のこれまでの感覚を変えなければならないのです。大人にとっても難しいことですから、子どもたちにとっては、もっと難しいのではないのでしょうか。

5月初めに、厚生労働省より新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」が公表され、多くの人たちが意識して行動しています。そして5月22日には、文部科学省から『学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」～』が示されました。これからは地域の感染状況や感染リスクの状況に応じて、学校での過ごし方や学習活動も変更していく必要があります。しかし、これまで友達と手をつないだり、集まって話し合ったり、じゃれ合ったりして、楽しい時間を過ごしてきたことを子どもたちは覚えています。感染防止のため距離を保って行動することは大切ですが、そのときの声かけや行動で相手を悲しませることがあってはなりません。「新しい生活様式」を学校生活に取り入れながらも、心と心はしっかりとつながっていけるようにしたいです。子どもたちが新しい集団の中で、気持ちよく仲間との関係づくりができるよう、教職員で支援してまいります。

12日(金)までは、クラスの半数が午前と午後に分かれての登校です。クラス全員がそろって活動できるのは、2週間後になります。段階的な学校再開第一期は、まず生活のリズムを整えながら、学校生活に慣れていけるようにします。学習については、休業期間中の学習状況を確認しながら、丁寧に進めていきます。子どもたちは新しい環境、友達、学習などで不安に感じることもあるかもしれませんが、気になることがありましたら、いつでも担任や児童支援専任、学校カウンセラーにご相談ください。当面の間は、授業参観や懇談会を行うことができないため、6月末に教育相談日も設けました。

これからも保護者の皆様にご協力をいただきながら、子どもたちが安心して楽しい学校生活を送ることができるよう、教職員一同努めてまいります。新たな気持ちでスタートです！